

2023 年度

インターンシップ・プログラム

実施報告書

2023 年 12 月



公益
財団
法人

大学コンソーシアム京都

The Consortium of Universities in Kyoto

ごあいさつ

2023 年度インターンシップ・プログラムの実施にあたり、ご協力を賜りました企業・団体や大学、その他関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

お蔭をもちまして、今年度は168名の大学生が就業体験をさせていただく機会を与えていただきました。それら修了生が実践から「働く」を考え社会人基礎力を養えたものと認識しております。

受入先、学生の双方がよりメリットを享受できるプログラムとして、発展できるよう皆様より引き続きご理解とご協力を賜りたく、今年度のインターンシップ事業の実施状況を本書にまとめました。ご高覧いただければ幸いに存じます。

長期プロジェクトコース 総合コーディネーター

桜沢 隆哉

京都女子大学 法学部 教授



長期プロジェクトコースでは、受入先企業・団体が提供するプロジェクトの最終目標を達成するため、学生が主体的に「計画」を立て、それを「実行」していきます。とくに実行する過程では想定外の困難に直面し、計画の甘さや実行力など様々な課題も明らかになってきます。この課題に気付くことこそが自分自身が成長するきっかけになるのだと考えています。

今年度も長期にわたるプロジェクトで学生を受け入れて下さった受入先企業・団体に感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

ビジネスコース 総合コーディネーター

多田 実

同志社大学 政策学部 教授



おかげさまで、今年度も受講生の成長が実感できるプログラムになりました。インターンシップが就職活動に直結している「就活前哨戦」のような感覚で捉えている学生が増えている昨今ですが、本プログラムでは、当初から一貫して「教育プログラム」であることを念頭に置いており、単なる「社会人体験」ではなく受講後の学生生活を考える一助となることを願っております。今後とも皆様のご支援ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

パブリックコース 総合コーディネーター

古川 秀夫

龍谷大学 国際学部 教授



パブリックコースでは、公共性や社会貢献を志向した実習プログラムが地方自治体や非営利組織から提供されています。受講生は、実習を通して公務員やNPO 職員へのキャリア意識を醸成するにとどまらず、市民の一員として享受する行政サービスの重要性やNPO の存在意義なども認識します。近い将来どんな職業に就いたとしても、受講生の全てが公共心あふれた善き市民になることを強く念願し、確信するものがあります。

目 次

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷……	1
第2章 2023年度インターンシップ・プログラムの実施内容 ……	2
1 プログラムの概要……………	2
2 長期プロジェクトコースの実施内容……………	4
3 ビジネスコース／パブリックコースの実施内容……………	5
4 プログラムの運用にあたって……………	5
第3章 受入企業・団体のアンケート結果から……………	8
第4章 受講生のアンケート結果から……………	14
第5章 今後の課題……………	27
1 インターンシップをめぐる状況……………	27
2 財団における今後に向けた取組……………	27
<資料>	
資料1 出願者・受講者数と受入企業・団体数について……………	28
資料2 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター(CO)数の推移……………	29
資料3 受入先登録企業・団体一覧……………	30
資料4 長期プロジェクトコース講義概要……………	32
資料5 長期プロジェクトコースプロジェクト別コーディネーター一覧……………	33
資料6 ビジネスコース／パブリックコース講義概要……………	34
資料7 ビジネスコース／パブリックコースコーディネーター一覧……………	35
資料8 受講生意識調査集計結果……………	36

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷

公益財団法人 大学コンソーシアム京都（以下「本財団」という。）が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（以下「本プログラム」という。）は、1997年に当時の通商産業省・文部省・労働省が合同で「インターンシップ推進にあたっての基本的な考え方」を取りまとめたことと並行して、本財団に「インターンシップ制度研究会」を発足させたことにはじまる。この研究会における検討の結果、インターンシップは「来るべき新時代に向けての産官学地域等が協働で構築する新たな人材育成を目的とする社会的制度であり、高等教育改革に資するプログラム」であるとして1998年度より本格的に始動した。

本プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学地域連携による教育プログラムとして実施してきた。実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的として、単なる就職のためのインターンシップではないことを強調している。これらの目的遂行のため、コーディネーターと事務局の協力による事業推進、受入先への訪問や意見交換会の実施、修了生や受入先担当者のゲストスピーカーとしての招聘、ニーズと社会情勢に応じたプログラムの改変、マッチングや事務処理の効率化のための事務システム導入などに努めてきた。中でも、2021年度以降、感染症等による社会状況の変化に対する学びの機会の確保等の観点から、選考面接、事前・事後講義についてなどオンラインを積極的に活用してプログラムを運営している。

これまでに京都地域にある大学・短期大学（以下「大学」という。）のすべての学生が参加できるというスケールメリットを活かして、延べ6,000を超える企業や行政機関、非営利組織などの協力のもと、延べ約1万名の学生が参加し、受入先や大学、受講生、指導するコーディネーターなどの意見を反映しながら、毎年検討を積み重ねてプログラムの改善を図っている。また、2005年度には、大学共同の取り組みとして、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に選定されるなど、社会的にも教育プログラムとして高い評価を得ることができた。

インターンシップは、本プログラムの開始以降、全国の大学でも独自の取り組みが進められている。現在インターンシップを実施している大学は、大幅に増加しており、インターンシップは大学生の課外活動として定着したと言える。他方で、2022年6月に一般社団法人日本経済団体連合会と大学関係団体等の代表者により構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」による協議を受けて、「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）が一部改正された。この基本的な考え方では「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」が4つの類型に整理され、一定の要件を満たすインターンシップに限り、今年度以降に企業・団体が学生の情報を広報活動・採用選考活動に使用できることとされた。それを受け、採用直結型のインターンシップの増加や就職活動の早期化など、大学生の就職活動を取り巻く環境が急激に変化していくことが考えられる。これらの状況を鑑み、本プログラムも社会の変化に応じて、さらなる充実をめざすために、「インターンシップ事業企画検討委員会」にて、時代に即したプログラム等について検討を重ねている。

また、各大学との連携について、2014年度から本プログラムを受講した学生に対し、大学が正課科目として単位認定をする場合、大学と本財団の間でインターンシップ・プログラムの運営に関する委託契約を新たに締結する運用を開始した。

今後も、意欲ある学生が本プログラムに参加でき、これまで以上に高い満足度を維持するため、産官学地域における連携をより密にするとともに、本プログラムが受講生だけでなく、受入先にとってもより意義のある取組となるよう、プログラムを推進する。

第2章 2023年度インターンシップ・プログラムの実施内容

1 プログラムの概要

(1) コースの設定

ア 長期プロジェクトコース

受入企業・団体が提示したテーマを実現するプロジェクト型として実施する。インターンシップ期間は、6月から11月までの約5か月間で、年1回の実施である。

イ ビジネスコース／パブリックコース

企業・行政機関・非営利組織において就業体験を行う実践型として実施する。インターンシップ期間は、8月から9月中旬までの間に10日以上で設定され、年1回の実施である。

(2) 受入企業・団体の登録

2023年度は、前年度インターンシップ・プログラムの登録企業・団体を中心に、新規企業の開拓にも注力し、約250の企業・団体に対しインターンシップ・プログラムへの登録を依頼した。

受入企業・団体の登録を依頼する際には、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、教育プログラムとして実施するインターンシップの理解を得るための案内パンフレット及び受入先ガイドブックの送付並びに電話連絡を中心に、実習日数の確保や実習内容の設定について説明を行った。

このような依頼に対し、ビジネスコース／パブリックコースに130、長期プロジェクトコースに12、合計142の企業・団体からの登録を得た。このうち、新規に登録のあった企業・団体数は、ビジネスコース／パブリックコースに5、長期プロジェクトコースに1の合計5であった。また、昨年度未登録で、今年度に再登録のあった企業・団体数は、ビジネスコース／パブリックコースに12、長期プロジェクトコースに0の合計12であった。

(3) 学生の募集

学生募集にあたっては、主に募集ガイドブック、電子チラシ及びインターンシップ・ポータルサイトを中心に広報を実施した。本財団に加盟している大学のうち35大学、そして非加盟大学には11大学に募集ガイドブックを配布するとともに、電子チラシによるプログラム周知を依頼した。これらの資料はインターンシップ・ポータルサイトにも掲載し、学生が常に情報にアクセスできる環境を整えた。

各大学で開催されるインターンシップ説明会でのガイダンスを7大学で実施。また、例年、キャンパスプラザ京都で実施していた説明会は、昨年度に引き続きオンラインでの開催とし、説明会ではインターンシップ・プログラムの全般的な説明の他、修了生による経験の共有、個別相談会での質疑応答等を行った。

ア インターンシップ・プログラム説明会・相談会

日 時 4月15日(土) 18:00～20:30 参加学生数182名

会 場 オンライン (Zoom)

内 容 2023年度インターンシップ・プログラムの概要説明

修了生(4名)による体験談

受入先としてインターンシップ生に思うこと

大和電設工業株式会社 採用・教育担当 土肥 遥 氏

関西巻取箔工業株式会社 取締役 C.O.O 久保 昇平 氏

修了生ブースによる相談会

イ 長期プロジェクトコース説明会・相談会

日 時 4月20日(木) 18:00～20:30 参加学生数 33 名

会 場 オンライン (Zoom)

内 容 2023 年度インターンシップ・プログラムの概要説明

受入先によるプロジェクト紹介

修了生 (2 名) による報告

受入先 (12 団体)・修了生 (2 名) による個別相談会

(4) 出願及び面接

本財団への加盟・非加盟を問わず、各大学の正規学生及び大学院生であれば、学部・学年を限定せず出願可能とした。

出願手続き及び面接については、学生の利便性向上等の観点から、昨年度に引き続き、Web 出願、オンライン面接とした。面接は出願者全員に対して行い、実習を最後までやり遂げ、さらに向上心があるかを確認する観点で質問を行った。

ア Web 出願

4月7日(金)～5月5日(金) 出願者 193 名

イ オンライン面接 (Zoom)

5月12日(金) 15:30～19:30

5月13日(土) 10:00～16:30

(5) 選考及びマッチング

出願者に対する選考は、受入先が選考を行う場合と、本財団が選考を行う場合の2種類を設定した。選考方法は、受入先企業・団体の登録に基づき決定し、学生へ情報開示した。本財団が選考を行う場合には、受入先が提示する受入要件を満たしているか、また志望理由と実習内容が適合しているかを検討した上で、受講許可を与えた。

2023 年度プログラムに登録した受入先企業・団体のうち、受入先による選考を選択したのは29、本財団による選考を選択したのは113であった。

なお、長期プロジェクトコースは、長期間にわたって実施するプログラムであり、出願者のプロジェクト内容の理解を確認するため、全て受入先による選考とした。

(6) 受講手続

受講料は、2023 年度も引き続き、長期プロジェクトコースで 15,000 円 (加盟大学以外の学生は 20,000 円)、ビジネスコース／パブリックコースで 10,000 円 (加盟大学以外の学生は 15,000 円) とし、講座運営費・保険料・施設利用料・その他諸費用に充てた。

2 長期プロジェクトコースの実施内容

(1) 実施プロジェクト

今年度の長期プロジェクトコースにエントリーした12団体が提供する12プロジェクトのうち、6プロジェクトが成立した。6プロジェクトの内容と受講者数は、資料5のとおりである。

(2) 講義概要

ア プロジェクトの導入

オリエンテーションとしてプログラムの概要や諸注意等の説明を行った後、各プロジェクトに分かれてミーティングを実施した。ミーティングでは、プロジェクトメンバーの相互理解を進めるとともに、受入先からの目標提示を受け、講義の最後に、各プロジェクトの概要を全体に発表した。

また、オンデマンド配信によりリスクマネジメント講習を実施し、社会で起こりうるトラブルやリスクについて学ぶとともに、実習中のリスク管理、秘密保持等の重要性について理解を深めた。

イ プロジェクトの形成

プロジェクト形成の概要を学んだ上で、プロジェクトの目標、成果及び活動を明確にし、活動計画を設定し、他のチームの受講生と意見交換を行うことでプロジェクト活動の完成度を高めた。また、プロジェクト形成と併せて、映像コンテンツの活用法を学ぶプレゼンテーショントレーニングを実施した。

特別講演では、現代仕事論をテーマに、これからの働き方、求められるコミュニケーション能力について、ご講演いただいた。

<<講演概要>>

日 時 2023年6月22日 18:30～19:30

テーマ 組織を変えるコミュニケーション

講 師 パナソニック株式会社 戦略本部 CCX0 チーム

長谷川 錦哉 氏

ウ プロジェクトの実施

主に受講生の夏期休暇を利用して、活動場所を受入先に移しプロジェクトを実施した。プロジェクト活動については、対面を中心にインタビュー等を実施しながら、適宜、オンライン会議等によりチーム内で作業の進捗状況を共有した。

受講生は、サマーセッションとして映像コンテンツによる夏期活動中間報告を実施し、同セッションでは、今後の活動に係る個人ごとの目標について発表した。

エ プロジェクトの振り返り

プロジェクトにおける夏期休暇終了時点の進捗状況の報告とそれに対する意見に基づき、プロジェクト・プレゼンテーションまでの目標等を確認した。また、プロジェクトの評価方法を学び、受入先から提示のあった目標に対するアプローチの妥当性や有効性等について、プロジェクトごとに評価を行った。

オ プロジェクト報告・評価

講義最終日に、プロジェクト・プレゼンテーションを実施し、約5か月間の活動報告とその成果について発表した。また同日、今後のキャリア形成に向けて、プログラムの受講を通じた自己の変化を振り返る自己評価の時間を設けた。

受講生は、全てのプログラム終了後、プロジェクト報告書及び学習レポートを提出した。

3 ビジネスコース／パブリックコースの実施内容

(1) 実習受入れについて

今年度は、ビジネスコースで55団体に104名、パブリックコースで22団体に49名の学生に対し受講許可を決定した。出願者と受講者数については、資料1のとおりである。

(2) 講義概要

今年度の事前学習及び事後学習については、昨年度に引き続き、感染症等の社会状況の変化に対応できるよう全てオンラインにて開催した。講義内容については、以下のとおりである。

ア 事前学習

事前学習は、実習に向けた仮説と目標の設定と業界研究を通じたそれらの言語化を目的として、1クラス12名程度で編成されたゼミ形式で実施した。業界研究については、修了生21名、受入先企業・団体のご担当14名の方のご協力を得て実施し、社会が求めるスキルや心構えなどについても学習する機会とした。

イ ビジネスキル研修

外部講師を招いて、コミュニケーショントレーニング及びスキルアップトレーニングを実施した。コミュニケーショントレーニングでは、就業意識の向上、オンライン及び対面時を想定したビジネスマナーの基本、コミュニケーション能力等について学習した。また、スキルアップトレーニングでは、ロジカルシンキングの獲得を目指し、実践的理論を学んだ。

ウ リスクマネジメント講習

リスクマネジメント講習は、事前学習の初日及び最終講義日の2度に分けて実施した。講義では、社会で起こりうるトラブルやリスクについて学ぶとともに、実習中のリスク管理、秘密保持等の重要性について理解を深めた。

エ 事後学習

実習で得た経験や課題等についてクラスで共有し、相互理解を深めた。また、他者の経験を踏まえた仮説の検証や成長点の確認により、プログラム終了後も継続する学生生活へと繋げた。

「実習経験交流会」では全クラスを3グループに分け、その中でクラスごとに発表の後、他クラスからのコメントを元にした振り返りを行った。他クラスの経験も学び、幅広い知見をもって自己の学習を振り返る機会とした。

4 プログラムの運用にあたって

(1) 受入先企業・団体との連携

長期プロジェクトコースにおいては、出願受付の前に説明会を実施し、年間スケジュールや学生を受け入れる際の重要事項を伝達した。

ビジネスコース／パブリックコースにおいては、マッチング後に説明会を実施し、学生を受け入れる際の重要事項を伝達するとともに、担当コーディネーターとの意見交換の時間を設けた。また、受講生の実習日に、コーディネーターが受入先を訪問（オンライン面談及び電話を含む。）し、実習状況の確認を行った。

ア 長期プロジェクトコース受入先ご担当者説明会

日 時 6月15日(木) 18:00～18:30

会 場 キャンパスプラザ京都

参加数 受入先ご担当者 8名

内 容 2023年度のプログラム概要及び担当コーディネーターとの方針確認

イ ビジネスコース／パブリックコース受入先ご担当者説明会

日 時 6月8日(木) 17:00～18:30

会 場 オンライン (Zoom)

参加数 受入先ご担当者 63 名

内 容 2023 年度インターンシップ・プログラムの概要と講義内容について
実習生の受入れについて

受入先様による「インターンシップに対する想い」

富士フイルムビジネスイノベーションジャパン 京都支社 三宅 広之 氏

受入先ご担当者とコーディネーターとの意見交換

(2) 大学・短期大学との連携

学生の所属大学と連携し、プログラムの広報及びインターンシップの運営に係る情報共有を行った。プログラムの広報については、第2章1(3)のとおりであり、インターンシップの運営に係る情報共有については、授業や課外活動がコロナ禍以前の状況に戻りつつある中での、インターンシップの実施状況、受入先との連携及び学生対応の方針の共有を重点的に行った。

また、本プログラムを大学が単位認定する場合、インターンシップ事業に関わる単位委託契約の締結を行った。プログラム終了後、この契約に基づいた科目担当者会議を開催し、コーディネーターが採点した成績を開示するとともに、受入先の実習状況評価、受講生のレポート、講義への出欠状況を確認する機会を設けた。

(3) インターンシップ事業企画検討委員会

大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学連携による教育プログラムとして実施されている。

本委員会は、財団のミッションである大学間連携事業を推進する中で、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育としてのインターンシップ事業を推進し、加盟大学の教育の質向上と実社会に則した教育効果のあるインターンシップ・プログラムに資する検討の場としている。

上記目的を達成するために、本委員会で議題とする内容は、各コースコーディネーター会議や担当事業部会議においても報告し、また必要に応じて議題とし、事業運営の方針となりうるよう綿密に連携を取り進めることとしている。

ア 教育プログラムとしての質的向上に向けた主な審議事項

- ・2024 年度実施方針の策定に向けた課題について
- ・「インターンシップ・プログラム」の名称変更について

イ 開催日程

第1回 2023年6月23日(金)

第2回 2023年8月22日(金)

第3回 2023年10月27日(金)

第4回 2023年12月8日(金)

第5回 2024年2月16日(金)

ウ インターンシップ事業企画検討委員会構成委員

委員長	古川 秀夫	龍谷大学 国際学部 教授
副委員長	多田 実	同志社大学 政策学部 教授
委員	桜沢 隆哉	京都女子大学 法学部 教授
	吉田 咲子	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 キャリア形成学部 教授
	黒宮 一太	京都文教大学 総合社会学部 准教授
	濱田 崇嘉	龍谷大学 経営学部 准教授
	木下 翔吾	大谷大学 学生支援部キャリアセンター
	中西 善彦	京都先端科学大学 インターンシップ推進課
	渡邊 直裕	京都産業大学キャリア教育センター
	代崎 拓也	京都文教大学 就職部就職進路課
	松尾憲太郎	立命館大学 衣笠キャリアオフィス
	石川 武	喜一工具株式会社 取締役社長
	三宅 広之	富士フイルムビジネスイノベーションジャパン 京都支社

4 リスクマネジメント

(1) 三者協定書の締結

実習が円滑に進められるよう、全受入企業・団体と受講生の所属大学、本財団の三者間で「インターンシップ実習生派遣に関する協定書」を締結した。

(2) 感染症対策ガイドラインの策定

受講生に対しては、「大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラムに係る活動を行う際の感染症対策ガイドライン」、受入先に対しては、「インターンシップ・プログラム受入先ガイドライン」により、実習実施にあたり必要な対策及び対応を周知した。

(3) 保険

本財団では、プログラム開始から終了までの期間（実習期間を含む）、全コースの受講生を対象として、普通傷害保険及び個人賠償保険に加入し、不慮の事故やけが等に対応している。

なお、2023 年度については、保険金請求事例は発生しなかった。

【傷害保険】 死亡・後遺障害 500 万円／入院保険金日額 4,500 円／通院保険金日額 3,000 円

【賠償責任保険】 てん補限度額 1 億円（自己負担額 0 円）

(4) ハラスメントに対する取組

ハラスメント相談窓口を設置し、実習生をサポートする体制を整えている。ハラスメント相談窓口については、オリエンテーション及びリスクマネジメント講習にて受講生に案内した。また、受入先に対しては、ハラスメント対策について、各コース受入先ご担当者説明会にて説明を行った。

第3章 受入企業・団体のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「かなり満足」「やや満足」を合わせた数字から算出すると100%であった。また、次年度の受入れ予定については、77.5%の受入先が「受入れる予定である」と回答されており(2022年度は70.4%、2021年度は71.4%)、ご負担が多いにもかかわらず、多数の受入先から支持を得たことが窺える。一方、プログラムに対するご意見については改善点として認識し、今後検討していくこととする。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース／パブリックコース	2023年9月下旬(実習終了後)
長期プロジェクトコース	2023年11月中旬(プロジェクト終了後)

2. 回答数

	企業・団体数	回答数	回答率
ビジネスコース	54	52	96.3%
パブリックコース	20	18	90.0%
長期プロジェクトコース	6	6	100.0%
総計	80	76	95.0%

※ビジネスコース 3部署回答の受入先があったため回答数54の項目あり

※パブリックコース 3部署回答受入先があったため回答数20の項目あり

II. アンケートの集計結果

1. 受入れについて

●ご準備いただいた実習内容に対し、インターンシップ生のマッチングについてはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①満足している	52	96.3%	19	95.0%	6	100.0%
②どちらでもない	2	3.7%	1	5.0%	0	0.0%
③不満がある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

【①の理由】

- ・想像以上に良い組み合わせでした。
- ・当協会の運営であるユースホステルを理解した上での応募であり、当方としてもたいへんありがたい状況でした。
- ・業務柄多くの人と関わるため、どちらかというと積極性や社交性に長けている人材の方が向いていると考えており、この度の実習生はまさに向いている方だと感じました。
- ・全員とても実習に積極的かつまじめに取り組まれたと感じた。
- ・1・2年生がいるという事で少し不安な部分はあったが非常に熱心に参加してくれていたため満足しています。
- ・営業職種を希望される学生さんだったから
- ・受入生のやりたいことを叶えるという形で実習内容を決めたため、マッチしておりました。
- ・浴衣の着方をマスターし、接客にも励んで頂きました。
- ・どの部署での実習も意欲的に取り組んでいた
- ・前向きな学生さんだったため
- ・実習生自身が様々な分野を広く学びたい意向があり、実習内容と合致していた。
- ・実習生の興味のある分野と、業務内容はおおよそ合致していたように思う。
- ・積極的で前向きな実習生でよかった
- ・プログラミング経験者未経験者に関わらず、真剣に取り組む姿勢を見ることができたため。
- ・デザイン専攻の方では無かったものの、出された課題やOJT作業にも積極的に取り組んでいただき、最終日の成果発表は非常に良くできていたから。
- ・意欲的に取り組んでいただけました。
- ・10日間の業務体験中、積極的に仕事に取り組んでおられたので。
- ・会計に興味があり実際の会計事務所の仕事を学びたい実習生をマッチングいただいた。
- ・モチベーションが高く来ていただきました
- ・当社の仕事（IT・インフラ分野）に興味を持ってきて意欲があった。
- ・事前学習をしっかりと行うとともに、実習時にも大変熱心に取り組まれました。
- ・業界を志望する学生を送り込んでくれた
- ・やる気を持っている学生だったので。
- ・真剣に取り組んでくれる学生さんだったので。
- ・積極的で前向きな学生であった

- ・実習生が本学職員として仕事を行う素養を持っていた。
- ・積極的に接客をしておりホテルスタッフもそのまま続けて欲しいと聞いてます。
- ・真面目で誠実に活動できる学生をマッチングしていただけた。
- ・積極的で向上心を持った学生さんだったから
- ・こちらの実習内容を好意的に受け止めてくれる学生だったため
- ・とても熱心な学生を派遣いただいたから
- ・大学、専門などが異なるお二人で、戸惑うことも少なからずあったかと思いますが、結果的には問題なくインターン活動を修了することができたと思います。
- ・目的に向かってやってくれてよかった
- ・当法人の取組みに関心のある学生を選定頂き、その学生の取組み意識も高く満足しています。
- ・弊社の事業に興味を持ち、自発的に取り組んでくれていたので、素晴らしかったと思います。
- ・私たちの活動に興味を持ってくれている。

【②の理由】

- ・実習生が想像していた実習内容と実際の業務内容に乖離があるケースがあった

●実習内容は主にどのようなものを実施されましたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	31	57.4%	10	50.0%	1	16.7%
②社員の補助的な業務の一部を体験	13	24.1%	7	35.0%	2	33.3%
③社員の通常業務以外の業務	1	1.9%	1	5.0%	2	33.3%
④見学を中心に実施	5	9.3%	1	5.0%	0	0.0%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	2	3.7%	0	0.0%	0	0.0%
⑥その他	2	3.7%	1	5.0%	1	16.7%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

【⑥その他の記述欄】

- ・前半職員との交流、後半はプレゼンや現場見学の実施
- ・③（5日間）及び④（5日間）
- ・座学→実務→プロジェクトの複合型
- ・組織全体の業務で重要なパートの一部を体験

●支給された各種手当の総額をお答えください。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0円	48	88.9%	18	90.0%	4	66.7%
1円～4,999円	3	5.6%	1	5.0%	0	0.0%
5,000円～9,999円	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
10,000円～19,999円	0	0.0%	1	5.0%	2	33.3%
20,000円以上	2	3.7%	0	0.0%	0	0.0%
その他・無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

●次年度のインターンシップ受入れについてお伺いします。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①受入れる予定である	43	79.6%	15	75.0%	4	66.7%
②受入れない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
③未定	11	20.4%	5	25.0%	2	33.3%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

2. 受講生について

●参加した学生の実習態度はいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①真剣に取り組んだ	53	98.1%	20	100.0%	6	100.0%
②ふつう	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
③真剣さを感じられなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

●学生自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	52	96.3%	19	95.0%	6	100.0%
②どちらともいえない	2	3.7%	1	5.0%	0	0.0%
③成長があったと思えない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

●前問で「①成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。（複数回答）

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	30	55.6%	9	45.0%	1	16.7%
②自主性・独創性の育成	24	44.4%	14	70.0%	4	66.7%
③キャリア形成	13	24.1%	6	30.0%	1	16.7%
④問題解決能力の向上	16	29.6%	12	60.0%	3	50.0%
⑤多様な価値観の認識	33	61.1%	12	60.0%	5	83.3%
⑥コミュニケーション能力の向上	35	64.8%	17	85.0%	4	66.7%
⑦プレゼンテーション能力の向上	18	33.3%	8	40.0%	2	33.3%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	19	35.2%	9	45.0%	1	16.7%
⑨その他	2	3.7%	0	0.0%	0	0.0%

【⑨その他の記述欄】

- ・取材力と文章力
- ・リーダーシップ

3. インターンシップ・プログラムについて

●大学コンソーシアム京都が行うインターンシップに参加された一番の理由は何ですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①コンソーシアム京都の加盟大学との強化	6	11.1%	2	10.0%	2	33.3%
②指導することにより社員の育成になるから	9	16.7%	2	10.0%	0	0.0%
③学生への自社PRのため	8	14.8%	4	20.0%	1	16.7%
④採用活動につなげたいから	6	11.1%	2	10.0%	0	0.0%
⑤学生から自社に対するアイデアを得るため	5	9.3%	2	10.0%	1	16.7%
⑥社会貢献	20	37.0%	5	25.0%	2	33.3%
⑦その他	0	0.0%	3	15.0%	0	0.0%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

【⑦その他の記述欄】

・観光協会は、定期的に新規人材を雇用できる組織ではなく門戸の狭い職業だと感じていますが、学生の方からは 就職先のひとつとして興味があるというご意見をお聞きます。当機会に少しでも実態に触れていただき、リアルな就職先として検討できるかどうか判断され、その上で貴重な観光業界の人材として進まれるひとつのきっかけになればと思い参加しました。

- ・学生の就業意欲の向上に寄与し、職員の指導力の向上や職場の活性化に繋げるため
- ・本市独自のインターンシップを別途実施しているが、PRや採用活動の一環として、R3年度より実験的に貴団体のインターンシッププログラムに参加している。

●学生を受入れて、一番のメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①大学との連携強化	3	5.6%	2	10.0%	0	0.0%
②職場活性化	15	27.8%	3	15.0%	0	0.0%
③指導する社員の成長	10	18.5%	3	15.0%	0	0.0%
④自社のPR・広報・宣伝	1	1.9%	3	15.0%	0	0.0%
⑤優秀な学生との出会い	9	16.7%	4	20.0%	3	50.0%
⑥新たな企画開発	2	3.7%	0	0.0%	1	16.7%
⑦社会貢献	14	25.9%	5	25.0%	2	33.3%
⑧その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

●学生を受入れて、一番のデメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①指導に時間・コストがかかる	35	64.8%	11	55.0%	4	66.7%
②事前の準備に時間・コストがかかる	7	13.0%	4	20.0%	1	16.7%
③安全への配慮に手間がかかる	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
④情報漏えいが不安である	4	7.4%	1	5.0%	0	0.0%
⑤その他	7	13.0%	4	20.0%	1	16.7%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

【⑤その他の記述欄】

- ・デメリットは特になし
- ・京都市内から遠いため、実習生の滞在先の確保が必要になりコストがかかる。
- ・①及び②
- ・①、②に近いが、業界柄、実習生の知識量によって内容が変化するため、調整手間が必要になる。
- ・同時に多くの学生を受け入れるので、一人一人にきちんと向き合っているか、不安を感じる時がある。

●過去に受け入れた学生が、貴社・貴団体の採用試験に参加されたことはありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	16	29.6%	12	60.0%
②ない	23	42.6%	2	10.0%
③新卒採用を行っていない	8	14.8%	1	5.0%
④わからない	7	13.0%	5	25.0%
総計	54	100.0%	20	100.0%

●前問で「①ある」と答えた方にお伺いします。

過去に受け入れた学生を、貴社・貴団体において採用されたことがありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	9	50.0%	9	75.0%
②選考過程で採用には至らなかった	7	27.8%	1	8.3%
③不明	0	11.1%	0	0.0%
無回答	0	11.1%	2	16.7%
総計	16	100.0%	12	100.0%

●大学コンソーシアム京都以外から大学生のインターンシップを受け入れていますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①はい	32	59.3%	18	90.0%	4	66.7%
②いいえ	22	40.7%	2	10.0%	2	33.3%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

●インターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足されていますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
① 非常に満足	21	38.9%	8	40.0%	1	16.7%
② かなり満足	20	37.0%	8	40.0%	4	66.7%
③ やや満足	13	24.1%	4	20.0%	1	16.7%
④ やや不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤ かなり不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥ 非常に不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	54	100.0%	20	100.0%	6	100.0%

Ⅲ. ご意見・ご要望について（自由記述欄より抜粋）

本項目については、実習実施後調査書自由記述より抜粋したものを原文のまま掲載する。

ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

《ビジネスコース/パブリックコース満足度の理由について》

製造（食品）	良い生徒が来て下さいました。
製造（アパレル・繊維）	予定していた見学が一部実施できなかった
マスコミ・広告・印刷・出版	学生さんたちの自発性、成長速度に驚きました。弊社の基幹事業に関わるイベントに大きく貢献してくれました。
マスコミ・広告・印刷・出版	弊社の研修内容がややマンネリ化しているのではという不安があるのですが、兎に角今回も無事に終える事が出来てほっとしています。
デザイン	双方にメリットがあったように思う。学生の価値観を知る、業務の流れを知る、など。
情報・通信・IT	例年通り良かったです。前年までの2年間は連続4名受け入れでしたが、1名になってかえって向きあえてやりやすかったです。
商社・卸売	全員が主体的に行動され全体的に多くの学びにつながったこと
小売・販売・専門店	意欲的な学生と接点を持つことができ、自分自身の刺激や成長に繋がったと感じているためです。
金融・証券・保険	金融業界への理解、証券会社への理解度も高まり、学生に満足いただいている印象であるため。
不動産・建築設計	真剣に取り組んでいただいたため
士業（法律・会計事務所）	今の大学生の生の声が聞けて非常に参考になった。
コンサルティング・調査・研究	学生の理解度が高い状態にあったため、プログラム全体が良いと感じた
デザイン	参加者の方も意欲的にご参加いただけた事と弊社のスタッフも良い指導の機会が得られたので、今回のインターンシップは社内でも好評でした。
ホテル・旅館	実習生の学習意欲が高かった点が非常に良かった。受入れ側として学びを得る部分も多くあり、双方に価値のあるインターンシップであったと考えている。
観光・旅行	日数に限りがありましたので、出来ることが限られておりました。
レジャー・アミューズメント	与えられた業務に対して最後までしっかりと取り組んでいただいたため
教育（学校・大学等）	年々、学生さんの意識や学習姿勢がとても良くなっていくので楽しみにしています。
教育（学校・大学等）	参加学生の姿勢がその他職員に良い影響、刺激を与えることができたと考えています。学生目線の意見を発表いただき、今後の業務に役立つものとなりました。
教育（学校・大学等）	実習生の受入に伴い、部署の雰囲気明るくなった。また、職員にとっても業務の趣旨等を再確認する良い機会となった。
教育（学校・大学等）	私自身、今年からインターンシップを担当させていただくこととなったため、受入生と共に成長でき、本学の新たな一面にも触れることができたという点で満足度は高いです。
教育（学校・大学等）	実習そのものは双方にとって大変有意義と感じるが、準備や運営負担の点ではやはり負担感是否定できないため。
医療・福祉	実習へ取り組む姿勢に。
人材ビジネス	学生も非常に熱心に参加頂いていた点。
官公庁	実習生と受入れ部署のマッチングが良好であったと感じるため。また、実習生はインターンシップ・プログラムへの参加動機が明確であり、実習に真摯に取り組まれたことに加え、市の取組に対して的確な提案を行うなど多くの成果を残された。これにより、今回の実習が、実習生にも受入れ部署にも大きなプラスになったと考えるため。
官公庁	実習生が優秀であった。事前課題があることで本市への理解を深めてもらえてよかった。
官公庁	学生のモチベーションが高く、こちらの差配が追いつかないくらいだった。
官公庁	選考を貴団体に実施していただけた点や、前向きな学生を選出いただけた点、コーディネーターと様々なお話ができる点など全体的に大変満足しております。一方で、10日間という日程については、毎年負担に感じております。例えば「5日間コース」（本市が独自実施しているプログラムと同期間）などがあれば、今後も受け入れをさせていただきたいと現時点では考えております。
非営利組織	応募していただいた学生の、真剣に取り組む姿勢が素晴らしかった。また受け入れ側の事業状況もコロナ以前に戻りつつあり、通常運営の中で実習受け入れが出来たこともありが良かった。
非営利組織	使命感を持って受け入れましたが、職場も活気付いたため当方にもメリットがありました。

《ビジネスコース/パブリックコースプログラムの改善点について》

マスコミ・広告・印刷・出版	インターンシップの名称は何とか残す方向で検討してほしい
不動産・建築設計	運営側への要望ですが、発表会の内容が決して、実習先の方を招いて行うような内容ではないと感じました。企業側を招待するのであれば、もう少し、学生たちの学びにフォーカスをあてた発表会であって欲しいと感じました。
情報・通信・IT	参加学生に文系が多いです。もっと技術職に興味を持ってもらえる学生がいてくれたらなと思います。
金融・証券・保険	実習予定期間に別のインターンシップがかさなりやむなく2日間短縮で行った。学生さんには悪気はないと思いますが、少し優先順位が違うのかと感じました。
教育（学校・大学等）	実習経験交流会は3グループに分かれています、ゼミごとに部屋を作り、1回の発表時間を長くする方が良く考えています。数分の発表では伝わるものも伝わらないと考えられるからです。
官公庁	優秀な人材が来てくれたらありがたいが、手を焼く人材が来ると大変。
非営利組織	もう少し実習期間が長い方が活動し易いと感じた。

《長期プロジェクトコース満足度の理由について》

社会に必要なスキルを学び、実の仕事を体験することで社会時に必要なことを実感として理解できる良い内容だと思いますが、応募の減少に対して学生の魅力度向上を図ると更に良いかと思います。
木曜日の学びが良かったとおもう。実際に成長していたような気がする。
私たちの受け入れ体制が十分でなかったこともあり、『②かなり満足』としました。
まだまだ、改善点はあると思っていますが、どうしてもその課題が単年で切れてしまうところがあり、また一から始めるという感じになってしまうところがある
学生さんが中小企業の良さの理解をある程度してもらったと思う
今年も優秀で素敵な学生さんと出会うことができ、とても満足しています。

《長期プロジェクトコース ご意見・ご要望について》

貴重なプログラムの実施、ありがとうございます。
任意団体せもよい活動をしているところがあるので、そのような受け入れ先もあったほうが良い。
年度ごとにでも学生同士が引継ぎができるような形をとれたら、もっといいように思っています。
平時の参加ができなくて申し訳なかったと思う
最終成果報告、バタバタと遠隔で入る形となりすみませんでした。平日だとありがたいです！

第4章 受講生のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「やや満足」を合わせると全体の89.1%であった。また、成長感については、93.7%が「成長があったと感じる」と回答した。

概して、受入先企業・団体における就業体験においては満足度も高く成長に繋がるとともに、多くの受講生にとって、就職することに対する意識の醸成や卒業までの目標を定める機会となったことが確認できる。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース／パブリックコース

2023年9月16日～10月1日

長期プロジェクトコース

2023年11月11日～11月17日

2. 回答数

	回答数
ビジネスコース	84
パブリックコース	35
長期プロジェクトコース	10
総計	129

II. アンケートの集計結果

1. 実習について

●あなたが実習をおこなった受入先へのマッチングはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①大変満足	50	59.5%	23	65.7%	5	50.0%
②満足	30	35.7%	10	28.6%	4	40.0%
③どちらでもない	4	4.8%	1	2.9%	1	10.0%
④不満	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%
⑤とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100%

●あなたが体験した実習内容は、主にどのようなものでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①基幹的業務の一部を体験	25	29.8%	15	42.9%
②補助的業務の一部を体験	26	31.0%	14	40.0%
③通常業務以外の業務	5	6.0%	2	5.7%
④見学を中心に実施	12	14.3%	3	8.6%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	12	14.3%	0	0.0%
⑥その他	4	4.8%	1	2.9%
総計	84	100.0%	35	100.0%

【その他の記述内容】

- ・市役所が委託している事業先での実習
- ・インターンシップ生のみで行う顧客訪問、それに向けての準備
- ・指定された課題への取り組み
- ・実習生専用のプログラム（イベント、Web記事、フリーペーパーの企画）
- ・大学生同士のグループワークを中心に実施

●実習の実働日数は何日間でしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
7日未満	0	0.0%	0	0.0%
7～9日	15	17.9%	8	22.9%
10日	60	71.4%	18	51.4%
11～15日	9	10.7%	7	20.0%
16～29日	0	0.0%	2	5.7%
30日以上	0	0.0%	0	0.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%

●実習の実働日数についてはいかがでしたか。

ビジネスコース／パブリックコース

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	総計
7日未満	0	0	0	0	0	0
7～9日	0	6	16	1	0	23
10日	1	17	54	6	0	78
11～15日	0	4	10	2	0	16
16日以上	1	0	1	0	0	2
総計	2	27	81	9	0	119

長期プロジェクトコース

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	総計
6月～11月	0	1	3	5	1	10

2. 受講生自身の変化について

●あなた自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	77	91.7%	34	97.1%	10	100.0%
②どちらともいえない	7	8.3%	1	2.9%	0	0.0%
③成長があったと思えない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

●前問で「成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。（複数回答）

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	33	39.3%	15	42.9%	3	30.0%
②自主性・独創性の育成	32	38.1%	16	45.7%	4	40.0%
③キャリア形成	34	40.5%	20	57.1%	5	50.0%
④問題解決能力の向上	22	26.2%	10	28.6%	2	20.0%
⑤多様な価値観の認識	35	41.7%	21	60.0%	9	90.0%
⑥コミュニケーション能力の向上	53	63.1%	22	62.9%	6	60.0%
⑦プレゼンテーション能力の向上	28	33.3%	6	17.1%	2	20.0%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	32	38.1%	11	31.4%	2	20.0%
⑨その他	5	6.0%	1	2.9%	0	0.0%

【その他の記述内容】

- ・長所の認識。
- ・業界に対する理解の深まり
- ・自己分析・他己分析
- ・プログラミング能力
- ・自分の足りない部分や課題を明確にできた。

●受入先への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	19	22.6%	14	40.0%	0	0.0%
②やや就職したい	38	45.2%	16	45.7%	5	50.0%
③あまり就職したくない	19	22.6%	3	8.6%	5	50.0%
④就職したくない	8	9.5%	2	5.7%	0	0.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

●受入先と同業種への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	23	27.4%	17	48.6%	0	0.0%
②やや就職したい	37	44.0%	14	40.0%	6	60.0%
③あまり就職したくない	20	23.8%	3	8.6%	4	40.0%
④就職したくない	4	4.8%	1	2.9%	0	0.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

●就職することに対する意識の変化について

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①強く思うようになった	35	41.7%	18	51.4%	4	40.0%
②少し思うようになった	30	35.7%	7	20.0%	3	30.0%
③それほど変化はなかった	17	20.2%	8	22.9%	2	20.0%
④少ししたくないと思うようになった	1	1.2%	2	5.7%	0	0.0%
⑤強くしたくないと思うようになった	1	1.2%	0	0.0%	1	10.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

●実習前と比較して、実習した受入先の業種・職種のイメージはどうなりましたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①良くなった	69	82.1%	23	65.7%	7	70.0%
②変わらない	13	15.5%	12	34.3%	3	30.0%
③悪くなった	2	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

●インターンシップ実習で何を得られましたか。

1) 働くということを実感できた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	3	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	7	8.3%	1	2.9%	2	20.0%
③どちらでもない	4	4.8%	2	5.7%	1	10.0%
④思う	32	38.1%	15	42.9%	4	40.0%
⑤とてもそう思う	38	45.2%	17	48.6%	3	30.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

2) 受入先について知ることができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	2	2.4%	1	2.9%	0	0.0%
②あまり思わない	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%
③どちらでもない	4	4.8%	0	0.0%	1	10.0%
④思う	24	28.6%	10	28.6%	5	50.0%
⑤とてもそう思う	54	64.3%	23	65.7%	4	40.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

3) 自分のスキルが向上した

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	3	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	1	1.2%	2	5.7%	0	0.0%
③どちらでもない	13	15.5%	5	14.3%	0	0.0%
④思う	48	57.1%	19	54.3%	8	80.0%
⑤とてもそう思う	19	22.6%	9	25.7%	2	20.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

4) 自分の専門知識が向上した

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	3	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	5	6.0%	5	14.3%	1	10.0%
③どちらでもない	22	26.2%	9	25.7%	3	30.0%
④思う	37	44.0%	11	31.4%	5	50.0%
⑤とてもそう思う	17	20.2%	10	28.6%	1	10.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

5) 自分の力試しが出来た

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	3	3.6%	1	2.9%	0	0.0%
②あまり思わない	5	6.0%	2	5.7%	0	0.0%
③どちらでもない	19	22.6%	6	17.1%	2	20.0%
④思う	34	40.5%	16	45.7%	5	50.0%
⑤とてもそう思う	23	27.4%	10	28.6%	3	30.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

6) 卒業までの目標設定ができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	6	7.1%	2	5.7%	1	10.0%
②あまり思わない	5	6.0%	2	5.7%	0	0.0%
③どちらでもない	21	25.0%	4	11.4%	4	40.0%
④思う	41	48.8%	19	54.3%	4	40.0%
⑤とてもそう思う	11	13.1%	8	22.9%	1	10.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

7) 受入先に貢献できた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	6	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	12	14.3%	3	8.6%	2	20.0%
③どちらでもない	20	23.8%	6	17.1%	2	20.0%
④思う	35	41.7%	17	48.6%	6	60.0%
⑤とてもそう思う	11	13.1%	9	25.7%	0	0.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

8) 他大学の学生・教員とのネットワークができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	4	4.8%	5	14.3%	0	0.0%
②あまり思わない	5	6.0%	4	11.4%	3	30.0%
③どちらでもない	16	19.0%	4	11.4%	2	20.0%
④思う	38	45.2%	10	28.6%	3	30.0%
⑤とてもそう思う	21	25.0%	12	34.3%	2	20.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

●実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うことは何ですか。

1) ビジネスマナーや話し方

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	9	10.7%	3	8.6%	0	0.0%
②やや不安だ	38	45.2%	20	57.1%	2	20.0%
③どちらでもない	12	14.3%	7	20.0%	2	20.0%
④あまり不安ではない	22	26.2%	4	11.4%	6	60.0%
⑤不安でない	3	3.6%	1	2.9%	0	0.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

2) 職場の人との人間関係

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	9	10.7%	6	17.1%	0	0.0%
②やや不安だ	27	32.1%	11	31.4%	4	40.0%
③どちらでもない	16	19.0%	5	14.3%	2	20.0%
④あまり不安ではない	25	29.8%	10	28.6%	4	40.0%
⑤不安でない	7	8.3%	3	8.6%	0	0.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

3) スキルや専門知識

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	15	17.9%	8	22.9%	1	10.0%
②やや不安だ	38	45.2%	16	45.7%	5	50.0%
③どちらでもない	12	14.3%	6	17.1%	3	30.0%
④あまり不安ではない	16	19.0%	5	14.3%	1	10.0%
⑤不安でない	3	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

4) 体調管理

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	8	9.5%	2	5.7%	0	0.0%
②やや不安だ	20	23.8%	10	28.6%	3	30.0%
③どちらでもない	15	17.9%	9	25.7%	3	30.0%
④あまり不安ではない	24	28.6%	8	22.9%	1	10.0%
⑤不安でない	17	20.2%	6	17.1%	3	30.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

3. インターンシップ・プログラムについて

●インターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足していますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に不満	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%
②やや不満	1	1.2%	1	2.9%	0	0.0%
③どちらでもない	10	11.9%	1	2.9%	0	0.0%
④やや満足	35	41.7%	17	48.6%	6	60.0%
⑤非常に満足	38	45.2%	15	42.9%	4	40.0%
総計	84	100.0%	35	100.0%	10	100.0%

Ⅲ. ビジネスコース／パブリックコース「実習経験交流会」について

※本項目については、学生アンケート自由記述欄より抜粋したものを原文のまま掲載する。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

● 発表を聞いての感想

- 各自がそれぞれの実習先で何を学んだか、何を感じたのかということが知れ、自分が学んだこととの共通点や相違点、考え方の違いなどを発表を通して学ぶことができた。
- 他のゼミクラスの方と関わる唯一の機会であり、今回の実習先以外で自分が興味を持っていた職種（公務員など）についての話も聞くことが出来て非常に有益な時間だったと感じている。
- 業界も職種も全くことなる実習先へ行った方の話を聴き、この仕事はこのような業務内容なんだと知るとともに、私は気づかなかったどの仕事でも共通する内容も含まれていたもので、全体で学びを共有することは大切だと感じた。
- 企業や役所などそれだけでも学びの幅が異なるが、部署だけでも多くの経験の種類があることを知れたため、より多くの業種について興味を持つべきであると実感できた。
- それぞれ、普段行えないような企業の裏側を知れるような業務をたくさん経験したのだと感じた。どの方も、順序立てて話すことがうまいと感じた。
- それぞれの受け入れ先によって求められる力に差はあるがコミュニケーション力のような社会人として大切な力はどのような職場でも重視されていて、その向上のためにはいかに自分の頭で考えて行動するかが重要であると改めて感じた。どのゼミクラスの発表も自分にはない視点での課題解決へのアプローチがあり刺激になった。
- 自分が選んだ業界と違う業界の話聞くことができて、とても興味深く感じた。他のゼミ生に質問をしたり、逆に質問をもらったりすることで、より実習で学んだことへの理解を深められてよかった。
- どのグループの発表にも、スライドの構成や発表のしかたの工夫など見習いたい部分がたくさんあった。また、他の業種の業務内容や実習先での学びを発表で聞くことができて新鮮に感じたと同時に、就職活動で企業を探す際の参考にもなると思った。
- 自分が想像していた以上に多様な業種に実習に行かれていて、同年代がこれほど頑張っているのだと知り、良い刺激になりました。
- 私が実習に行った先とは全く業界も職種も異なる発表を聞くことができて、非常に良い学びになった。実習には行っていなくても、濃い学びの一部を知ることができた。今回私は大学に実習に行ったが、ほかの業界にも興味はあるので、どんなことをされて、どんな学びを得たのかを知ることができて良かったと思う。
- 他の企業はまた全く違う実習内容で、それぞれの経験から感じたこと、固定観念など、上手くまとめられたプレゼンが多く、勉強になった。
- 他のコースで学んだことも合わせて聞けて良かった。他のグループの交流会での発表内容も共有されるとさらに学べる量が増えると感じた。
- 自分には知らないことがたくさんあるなと感じました。どこのチームもインターンシップ実習を通して、多くの学びを取り入れることが出来たのではないかと思います。
- 体験した実習先とは全く違う研修で、興味深い反面、お客様のためにということはどの仕事であれ変わらないことからそれを見失うと仕事ではないのだと思った。

● 発表時間及び準備について

- 発表時間に関して、話す側からすると経験したことをもっとたくさん共有したいが、参加するクラス数を考えると順当なところ。準備期間は午後の 90 分だけでかなり短いと感じたが、短期間である程度のものを完成させるというスキルもまた社会人になるうえで必要になってくるだろうと感じた。
- 発表時間については、短い時間ではあるような気もしましたが、各チームの発表を聞くとなると良い発表時間でもあったのかなと思いました。準備時間についても、初めは発表時間までに間に合うか不安ではありましたが、限られた時間で発表内容を決め、スライドを作ることが出来たので、問題はないと思います。
- 5 分という時間は長すぎず短すぎず、伝えたいことを絞って伝えられるとても良い時間だった。チーム全員で話したいことはある程度共有できていたので準備に時間はかからなかった。
- 発表時間は適切であったと感じる。準備時間は第 16 講の間だけだったので、少し短かった。ある程度事前に概要を伝えて頂ければ事前にまとめることができたのにと感じる。
- 発表時間については、各グループに与えられる発表時間をもう少し長くしてほしいなと思った。準備時間についても、もう少し議論する時間があれば、さらに内容が良くなると思った。
- 適当であったと思う。しかし時間内に全員の発表をきくというのは薄まってしまうため、ゼミ内の代表何名かが全体で発表するのも良いかもしれない。
- 発表時間も準備時間もかなり少ないと感じた。準備時間に関しては発表当日より前に班全員で打ち合わせをしてスライドづくりに取り掛かっていなかったら間に合っていなかったと思う。
- 準備時間が短いと感じました。先生によって前の週から準備する場合と、その時間だけで準備する場合があったと思います。私たちは後者で、かなりバタバタしてしまったので、もっとしっかりとした振り返りや準備がしたかったと感じました。

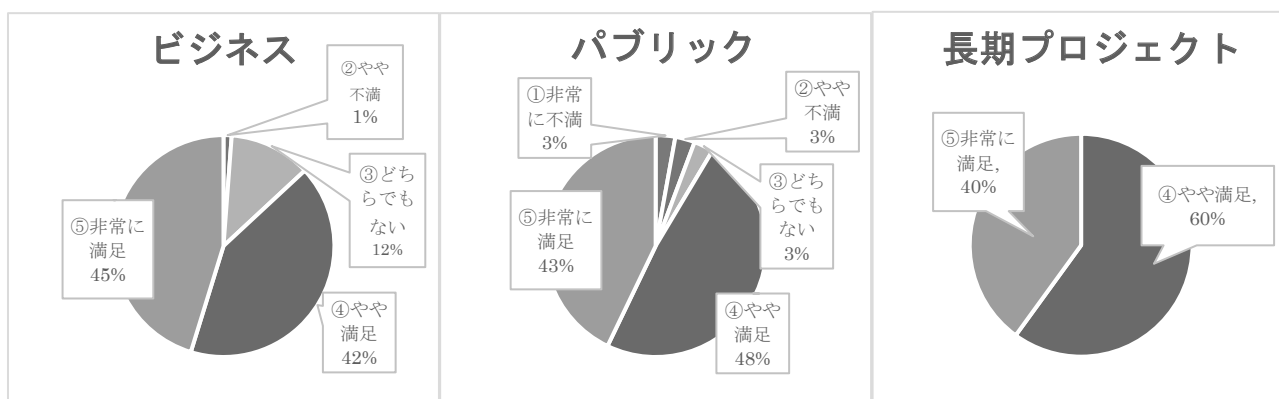
● その他の意見

- ゼミクラスによっては、あらかじめ動画を撮るなど準備期間の違いが見られた。これは各ゼミクラスのコーディネーターの意向なのか。
- 台風で中止になった日程があるので、全体でやむなく中止になった場合の対応を用意してくれるとちょっと損したなという気持ちにならずに済むのではないか
- 実習経験交流会での発表が 5 グループと多かったので、3 グループくらいがちょうど良い長さだと感じた。

IV. 意見・感想について

※本項目については、学生アンケート自由記述欄より抜粋したものを原文のまま掲載する。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

●全体を通して



《ビジネスコース／パブリックコース》

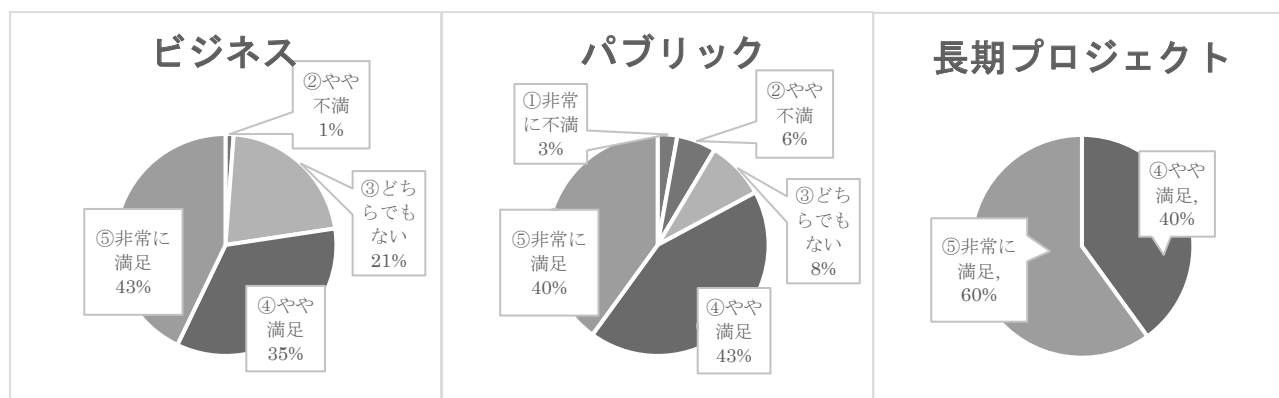
- 一般的なインターンシップと違い、事前学習や事後学習による効果的な指導やコーディネーターである先生方のサポート、他の学生との交流が充実していたから。
- 参加する前は不安な気持ちもあったが、事前・事後学習を通じて自分の目標や実際行ってみて見えた課題を整理することができたから。
- 今回のインターンシップ・プログラムでは、他のインターンシップと比べて長い期間で、実際の業務を体験させていただき、働くことを強く意識できたと思うから。また、事前・事後学習でのゼミの雰囲気も良く、しっかり学習を深められたと思う。「教育の一環」とおっしゃられていた通り、「働く」ことについて深く学べたと感じた。
- インターンシップ実習前のコミュニケーショントレーニングやスキルアップトレーニングなど社会人としての基本的なマナーについて学ぶことができた。そして、この学びを活かして、インターンシップ実習に繋げることができたと感じています。
- 9日（台風により一日減少）というのは程よい期間であったと思う。1，2日のインターンシップでは知ることのできない会社の空気を感じることができた。また、受け入れ先の人との信頼関係を作り、最高のパフォーマンスで最後までやりきることができる適切な期間であった。
- 事前学習で実習先に対する理解が深まりと自分自身の目標を設定することが出来たため、実習の目的を明確にしてから取り組むことが出来たから。また、実習内容も実際に職員の方が行っている様々な業務に携わるなど非常に有意義であった。さらに他の実習生の方と関わる機会も多く、切磋琢磨しながらインターンに参加することが出来た。
- 実習前の準備や、実習後の振り返りが充実しており、不安が軽減した状態で実習に行くことができたため。また、振り返りを言語化することで、経験を経験で終わらせないようにすることができた。
- 事前学習などで実習に行く前のサポートや準備が充実しており、実習に対して不安に思うことが少なかったから。また、事後学習において自分の経験や他の実習生の経験を共有し振り返る機会があり、充実したインターンシップになったから。

- インターン後も事前学習や事後学習があることで、実習への不安が解消されたり、実習の振り返りができることが、とても良いと思いました。
- 事前学習と事後学習で自分を客観的に見つめなおし、実習先での実践的な学びを通して社会に出て働くにおいて自分が持っている強みや足りない部分に気づくことができたということについて、とても大きな成果だと感じたから。
- 事前・事後学習がしっかりとしており、他の方とも意見交換をする機会も多く勉強になった。提出物等が少し多く感じることもあり、通常の就職活動も兼ねて行なっている 3 回生にとっては重荷になるのではないかと思った。
- 事前事後学習が充実しており、なんとなく行くのではなく、また、単に実習して終わりではなく、事前に目標を明確化して、事後、どのような結果に終わったのかわかるように構成されているので良かった。しかし、事前学習が丸一日 zoom で受けなければならなかったのは苦痛であった。

《長期プロジェクトコース》

- 自分のたりない部分の理解ができた。また、何度も発表する場があったのでちょっとずつ人の前で話すことの緊張感がなくなった。前もって用意した内容だけでなく、その場で考えて話すこともあり、自分の気持ちを話す良い機会になった。
- 講義内容も毎回勉強になり、事務局の皆さんもコーディネーターの先生も実習先の皆さんも親切で、毎回の講義や実習が楽しく良い経験になったから。
- 通常ではできない体験ができて楽しかったです。
- 多くの先生方や事務局の方、講師の方などにサポートしてもらいよかったです。
- とにかく貴重な経験をすることができて、しっかりと自分を見つめ直せたから。
- 主体的に学べたから
- 自分が成し遂げたことに達成感があったから。
- インターンを通して成長できたから。
- 成長を感じることが出来た。
- 参加できてよかったです。交通費がすごくかかり、学生としてつらかったです。しかしそれ以上に、学校の学びでは得ることができない、1 人ではできないことをたくさん経験させていただいて感謝しております！

●事務局について



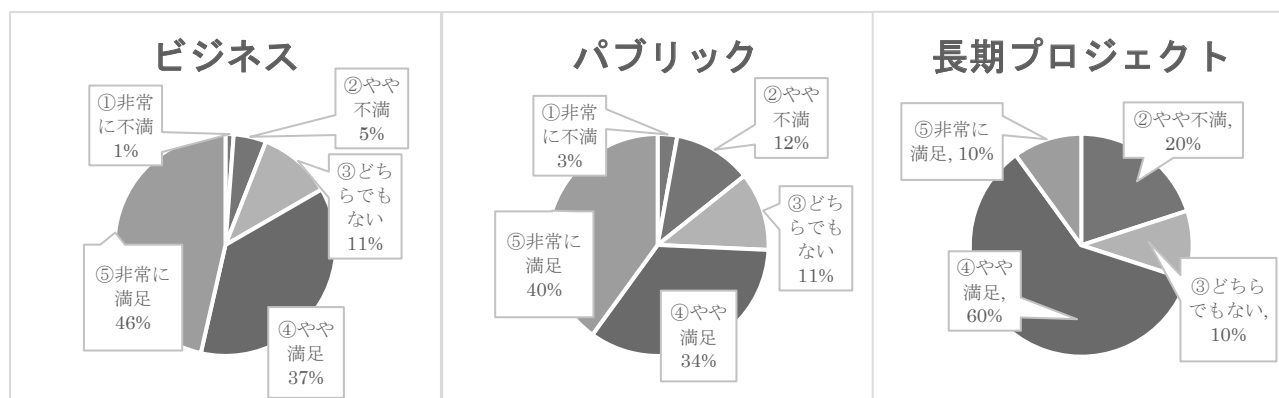
《ビジネスコース／パブリックコース》

- ガイドブックの内容や講義中の説明などとても丁寧で安心できた。
- プログラム参加前から、説明会の実施があったり、電話でコース選択についての相談に乗っていただいたりして、丁寧に対応していただいたことが参加の後押しになりました。実習中も、台風で中止になった日程について相談したときに優しく対応していただき、とても心強く感じました。
- メールで事前学習レポートや事後学習レポートなど提出物による締め切り日の連絡やご案内の連絡などしていただけたことがありがたかったです。
- 出願時に相談させていただきました。不安なことや小さなことをしっかりと受け止めて聞いてくださって嬉しかったです。
- 事前の注意や連絡はしっかりしており、提出物などで疑問に思うことは無かった。
- 関わっていないから分からない、申し訳ない。しかし、何事もなくプログラムが終了したことから事務局には感謝している。

《長期プロジェクトコース》

- いつも素敵な笑顔で迎えてくださってありがとうございますという感謝しかありません。
- 良かったことはいつも丁寧な対応をしてくださったこと。
- いつも活動しやすい環境を提供してくださった。wi-fi については最後までうまくいかず、自分の携帯からデザリングしていた。

●コーディネーターについて



《ビジネスコース／パブリックコース》

- 事前学習においても話しやすく頼れる先生だと感じており、また中間指導で実際にお会いした時も親身になって話を聞いて下さり本当に優しい先生だった。
- ゼミクラス担当の先生は、事前・事後学習のみならず実習中の訪問などの機会にも実習生皆のことを気にかけてくださり、安心して実習などのプログラムに臨むことが出来た。
- 丁寧にレポートの添削をしていただいたり、様々な場面でアドバイスをいただいたりとサポートをしていただけた。
- メリハリをつけて授業を行うことができた。また、学生一人ひとりに意見を聞き、授業を進めくださったのが良かったと思います。
- 先生から声掛けをしてくださって皆さんでお会いできたため、とても貴重な機会とメンバーからの刺激、今後の成長を生んでくださった。実習中も日々の LINE を通した気遣いの言葉や写真の共有など、真摯に我々インターン生に向き合い本気で取り組んでくださったことに感謝を述べたい。
- 就職活動についての情報を豊富に伝えていただき、今自分は何をすべきか、また将来何をしなければならないのかをイメージすることが出来ました。
- 事前学習のレポートの分量の多さや内容の選定など非常に大きな不安について相談し、丁寧に答えていただき、実習中も見守ってくださり嬉しかったです。しかし、時間の管理を毎回その場その場でされており、一人に質問する時間や話題が長くなり、休憩時間に長引いたりバタバタしたりして、納得のいく振り返りにできずもったいなかったと思いました。授業を増やしても良かったので、プログラムとしてその点はコーディネーターの先生にもしっかりと組み立てていただきたかったです。その分生徒に向き合ってください姿勢には救われることもあったので、良い方向に改善されればと思います。
- せっかくゼミクラスがあるにもかかわらず、学生同士が関わる機会が設けられなかった。また、講義時間の半分ほどを個人作業にするなどしていたため、クラスで集まる意味を成していなかった点に不満を感じた。

《長期プロジェクトコース》

- 様々な話を聞けたので、とても学びになりました。
- 相談しやすく、専門の先生だったため頼りにさせていただくことが多かった。
- 良かったことは私たちが立ち止まったら一緒に考えてくださったこと。
- 2人で上手く話ができているのに、先生もすぐに席を立ってどこか行ってしまうので不安でしか無かった。

第5章 今後の課題

1 インターンシップをめぐる状況

財団によるインターンシップ・プログラムは、1998年度から24年にわたり大学と連携し、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育プログラムとして充実を図ってきた。

近年、インターンシップの社会的普及の中で、全国の大学、企業・団体がそれぞれ独自にインターンシップ・プログラムを展開し、企業・団体による採用を目的としたインターンシップの増加が顕著となっている。そうした中、一般社団法人日本経済団体連合会と大学関係団体等の代表者により構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」からの提言を受けて、文部科学省、厚生労働省、経済産業省は「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」を昨年6月に一部改正した。この基本的考え方では、「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」が四つの類型に整理され、要件を満たすインターンシップに限り、今年度以降に企業団体が学生情報を広報活動・採用選考活動に使用できることとされた。これは大学等におけるキャリア形成の取組みの位置づけを変えるものではないが、産業界と大学等がインターンシップ等の取組みに積極的に関与し、推進していくことを求める内容となっている。

財団が実施するインターンシップ・プログラムは、基本理念に掲げる通り、大学教育の一環としての産官学地域連携による教育プログラムであり、採用に直結するものとは異なり、「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を教育目標としている。四つの類型においては、タイプ2に該当する「キャリア教育」として実施しており、2024年度から財団が実施する「インターンシップ・プログラム」の名称を「産学連携教育プログラム」に変更することが決定した。インターンシップの位置づけが多様化している中であるからこそ、本プログラムの位置づけと目標を学生、受入先企業・団体、大学に対してより明確に発信していく必要がある。

2 財団における今後に向けた取組

本インターンシップ・プログラムは、財団の中期計画第5ステージプラン（2019～2023年度）の柱のひとつ「大学間連携による学びの提供と充実」を推進する施策に位置づけられている。2023年度には30大学から193名の学生の出願があり、大学間連携のインターンシップ・プログラムとしては全国で最大規模の取組みとなっている。

一方、プログラムを取り巻く状況は大きく変化している。新型コロナウイルスの影響により、2020年度はプログラムの中止を余儀なくされ、2021年度からはビジネスコース／パブリックコースの事前・事後講義をオンライン実施に変更している。また、社会環境の変化とともにプログラムに参加する学生の価値観、学習スタイル、受入先から提示される実習内容・課題・方法などにも変容が見られる。そうした中、学生の成長と受入先企業団体の活性化に資するプログラムをめざし、企業団体との接点を拡大し、学生の成長目標と受入先の目標・課題とのつながりをさらに深めていく協働の取組みを強化していく必要がある。また、受入先の拡充、相互のネットワーク形成をめざし、業種の異なる複数の企業・団体が連携して実施する（業種等を越えて複数の受入先が実習プログラムを企画する）コラボレーションインターンシップ、京都の地域産業に関係する各種団体との連携などの取組みの推進について、財団の次期中期計画の策定とともに検討を進めている。

資料1. 出願者・受講者数と受入企業・団体数について

1) コース別 出願者数

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	修了者数	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
ビジネス	178	104	100	97	54	55.7%
パブリック		49	40	33	20	60.6%
長期プロジェクト	15	15	13	12	6	50.0%
合計	193	168	153	142	80	56.3%

2) 学年別 出願者数と受講率

学年	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
1年次(回生)	10	5.2%	9	5.4%	90.0%
2年次(回生)	54	28.0%	53	31.5%	98.1%
3年次(回生)	122	63.2%	101	60.1%	82.8%
4年次(回生)	4	2.1%	3	1.8%	—
5年次以上(回生)	0	0.0%	0	0.0%	—
大学院生	3	1.6%	2	1.2%	66.7%
合計	193	100.0%	168	100.0%	87.0%

3) 男女別 出願者数と受講率

	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
男性	78	40.4%	71	42.3%	91.0%
女性	115	59.6%	97	57.7%	84.3%
合計	193	100.0%	168	100.0%	87.0%

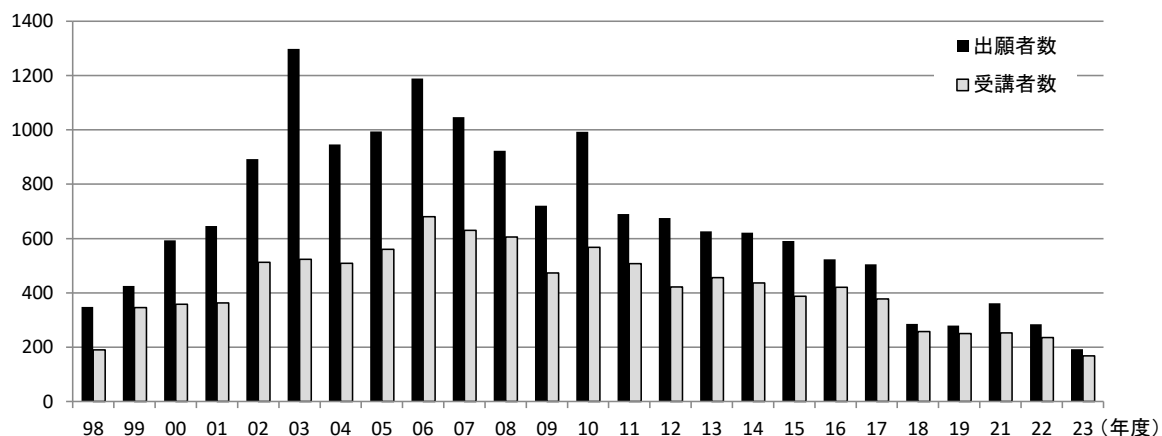
4) 大学別 出願者数

	大学名	出願者数	実習許可者数		大学名	出願者数	実習許可者数
加盟大学	京都大学※大学院生含む	5	5	加盟大学	京都文教大学	9	8
	京都教育大学	3	3		京都文教短期大学	0	0
	京都工芸繊維大学	1	1		京都薬科大学	0	0
	京都市立芸術大学	0	0		嵯峨美術大学	2	2
	京都府立大学	15	13		嵯峨美術短期大学	0	0
	京都府立医科大学	0	0		種智院大学	0	0
	福知山公立大学	0	0		成安造形大学	3	2
	池坊短期大学	0	0		同志社大学	32	29
	大谷大学	9	9		同志社女子大学	2	1
	京都医療科学大学	0	0		花園大学	1	1
	京都外国語大学	6	5		佛教大学	4	4
	京都外国語短期大学	0	0		平安女学院大学	1	0
	京都華頂大学	0	0		明治国際医療大学	0	0
	華頂短期大学	0	0		立命館大学	16	12
	京都看護大学	0	0		龍谷大学※大学院生含む	32	30
	京都経済短期大学	0	0		龍谷大学短期大学部	0	0
	京都芸術大学	0	0		大阪医科大学	0	0
	京都光華女子大学	16	12		京都情報大学院大学	0	0
	京都光華女子大学短期大学部	0	0		放送大学 京都学習センター	0	0
	京都産業大学	6	6	非加盟大学	大阪教育大学	1	1
	京都女子大学	15	12		神戸大学	1	1
	京都精華大学	0	0		滋賀大学	1	1
	京都西山短期大学	0	0		鳥取大学	1	1
	京都先端科学大学	3	2		広島大学	1	1
	京都橘大学	0	0		大阪市立大学	1	1
	京都ノートルダム女子大学	3	3		東京都立大学	1	0
	京都美術工芸大学	0	0		大阪学院大学	1	1
					関西学院大学	1	1
					出願者総数	193	168

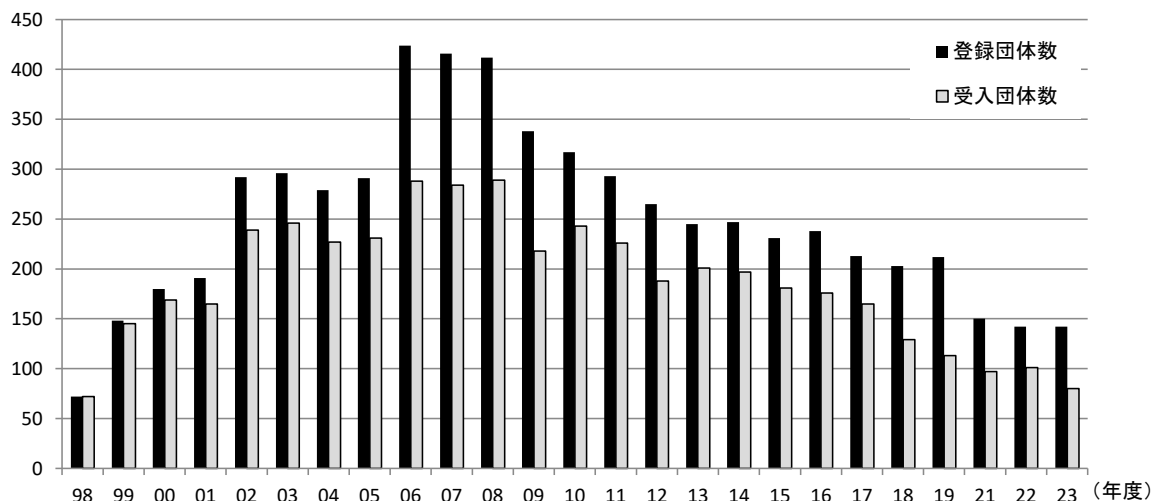
資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター（CO）数の推移

年度	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	21	22	23
出願者数	348	426	593	646	893	1298	946	994	1189	1047	923	721	993	690	676	627	621	591	524	505	286	279	362	285	193
受講者数	190	346	358	363	512	523	509	560	680	630	605	473	567	507	422	456	437	388	421	378	257	250	253	235	168
登録団体数	72	148	180	191	292	296	279	291	424	416	412	338	317	293	265	245	247	231	238	213	203	212	150	142	142
受入団体数	72	145	169	165	239	246	227	231	288	284	289	218	243	226	188	201	197	181	176	165	129	113	97	101	80
CO人数	9	12	13	16	27	26	30	32	39	40	43	37	37	38	37	35	32	31	33	33	24	24	22	24	24

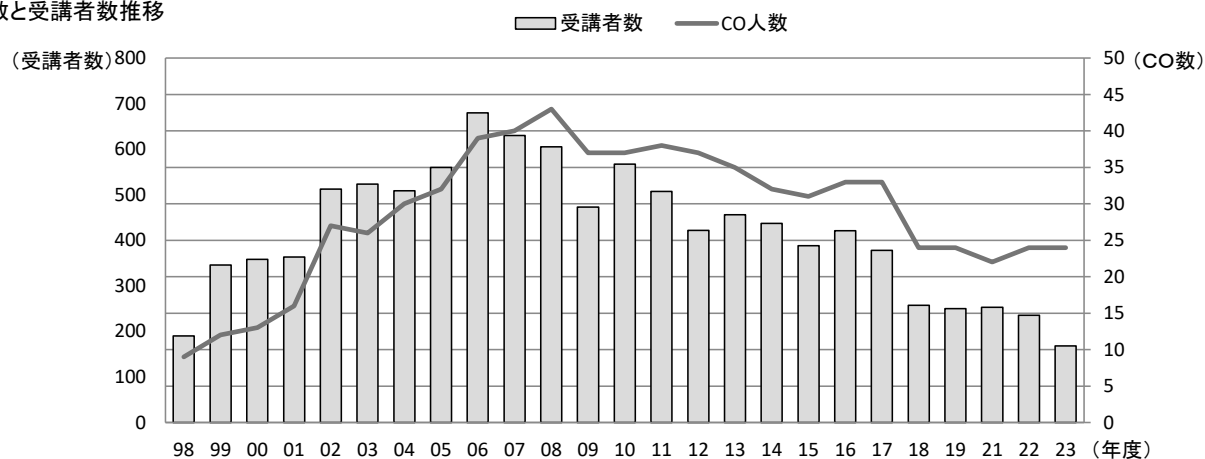
出願者数の推移



参加団体数推移



CO数と受講者数推移



資料3. 受入先登録企業・団体一覧

ビジネスコース

■製造(食品)

株式会社石田老舗
亀屋良長株式会社
丹波ワイン株式会社
株式会社西利

■製造(アパレル・繊維)

岡山工芸株式会社

■製造(電気機械設備)

株式会社カシフジ
寺崎電気産業株式会社
日工電子工業株式会社
由利ロール株式会社
和晃技研株式会社

■製造(半導体・精密機器)

株式会社魁半導体
菅原精機株式会社
株式会社積進

■製造(その他)

株式会社ShinSei
株式会社セイワ工業
株式会社箭木木工所

■マスコミ・広告・印刷・出版

アートム株式会社
株式会社あおぞら印刷
株式会社京都通信社
株式会社文化時報社
宮川印刷株式会社
株式会社ユニオン・エー
株式会社らくたび

■情報・通信・IT

協和テクノロジーズ株式会社
株式会社クラックスシステム
株式会社KCNなんたん
大和電設工業株式会社
株式会社ディレクターズ・ユニブ
株式会社るーぶ

■商社・卸売

株式会社佐野
株式会社ヒトミ
富士フイルムビジネスイノベーション
ジャパン株式会社京都支社

■小売・販売・専門店

京都生活協同組合
生活協同組合コープしが
株式会社ハートフレンド
(総合食品スーパーフレスコ)
株式会社花工房

■金融・証券・保険

株式会社葵総合保険
株式会社エスアールエム
SMBC日興証券株式会社
西村証券株式会社
株式会社ラクール保険事務所

■不動産・建築設計

株式会社インテリアホソイ
京都駅ビル開発株式会社
株式会社空間デザイン
株式会社クレバー
有限会社一級建築士事務所 ターボ設計
株式会社長栄
株式会社莫設計同人
株式会社フラット・エージェンシー
株式会社ローバー都市建築事務所

■士業(法律・会計事務所)

弁理士法人京都国際特許事務所
税理士法人京都ビジコン
こもだ法律事務所
弁護士法人中村利雄法律事務所

■コンサルティング・調査・研究

サンスイコンサルタント株式会社
株式会社地域未来研究所
株式会社Hibana
株式会社ユメコム

■デザイン

株式会社ジイケイ京都

■ホテル・旅館

ウェスティン都ホテル京都
株式会社国華荘 びわ湖花街道
里湯昔話 雄山荘
柊家株式会社

■観光・旅行

オーパルオブテックス株式会社
京都新聞企画事業株式会社
(京都新聞旅行センター)

■西陣くらしの美術館富田屋

有限会社丸益西村屋

■エンタテインメント

ビーイングホールディングス株式会社

■レジャー・アミューズメント

株式会社志摩スペイン村
株式会社ビックスマイル
Y'sスポーツガーデンパデル京都

■教育(学校・大学等)

大谷大学
京都外国語大学 京都外国語短期大学
京都光華女子大学・
京都光華女子大学短期大学部
国立大学法人京都工芸繊維大学
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学
京都国際マンガミュージアム
京都先端科学大学
京都文教大学
社会福祉法人熊千代会
こぐま上野保育園
公益財団法人大学コンソーシアム京都
同志社大学
立命館大学
学校法人龍谷大学

ビジネスコース

■医療・福祉

公益社団法人京都市身体障害児者
父母の会連合会

社会福祉法人京都福祉サービス協会

社会福祉法人清和園

京都市久世特別養護老人ホーム

医療法人社団 千春会

社会福祉法人同朋会 DOHOグループ

■安全・メンテナンス・清掃

株式会社アイアム

株式会社ワタナベ美装

■人材ビジネス

株式会社OVO

株式会社学生情報センター

株式会社ワークステーション

■その他

公益財団法人

京都市音楽芸術文化振興財団

公益財団法人びわ湖芸術文化財団

パブリックコース

■官公庁

綾部市役所

宇治市役所

近江八幡市

大津市

亀岡市役所

川西町役場

京田辺市

京都市

京都府庁

草津市役所

滋賀県庁

摂津市

長岡京市役所

彦根市

防衛省 自衛隊京都地方協力本部
河原町募集案内所

宮津市役所

守山市役所

野洲市

栗東市役所

■非営利組織

一般財団法人大阪教育文化振興財団

特定非営利活動法人気候ネットワーク

特定非営利活動法人京都藝際交流協会

公益社団法人

京都市身体障害者団体連合会

京都市野外活動施設 花背山の家

公益財団法人京都市ユースサービス協会

一般社団法人 京都府北部

地域連携都市圏振興社 伊根地域本部

一般財団法人京都ユースホステル協会

特定非営利活動法人クリエイター育成協会

公益財団法人公害地域再生センター
(あおぞら財団)

特定非営利活動法人子育て支援

コミュニティおふいすパワーアップ

特定非営利活動法人子ども自立の郷
ウォームアップスクールここから

特定非営利活動法人

とよなか市民環境会議アジェンダ21

認定NPO法人びわこ豊穡の郷

長期プロジェクトコース

社会福祉法人あだち福祉会

株式会社インサイトハウス

一般社団法人Impact Hub Kyoto

株式会社大槻シール印刷

関西巻取箔工業株式会社 (KANMAKI)

特定非営利活動法人気候ネットワーク

特定非営利活動法人クリエイター育成協会

つねよし百貨店

株式会社ディアライブ

有限責任事業組合まちとしごと総合研究所

特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば

株式会社ユニオン・エー

資料4. 長期プロジェクトコース講義概要

全体の 流れ	日程	コマ数	時間	講義名	講義 単位	内容	実施場所	
プロジェクトの 導入	2023/6/15 (木)	第1講	18:30～19:00 (30)	オリエンテーション(プログラムの概要)	全受講 生	プログラムの概要、諸注意、事務連絡、担当コーディネータ ーの紹介。	キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施	
			19:00～19:30 (30)	プロジェクトの導入 (インターンシップ概論)		インターンシップ及びプロジェクトの概念について理解す る。		
		第2講	19:40～21:10 (90)	プロジェクトのテーマの共有とチーム形成 (受入先に対する理解とプロジェクトのアイデア出し)		受入先の事業目的と課題を理解し、チーム形成に繋げる。		
	受入先事前訪問期間:6月16日(金)～6月21日(水)の間に実習先を訪問またはオンラインでの打ち合わせを行い、プロジェクトについて指導、アドバイスを受ける。(プロジェクトごとに設ける)							
プロジェクトの 形成	2023/6/22 (木)	第3講	18:30～19:30 (60)	特別講演 (組織を変えるコミュニケーション)	全受講 生	外部講師を招き、これからの働き方、求められるコミュニ ケーション能力を考える。	キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施	
		第4講	19:40～21:10 (90)	プロジェクトマネジメント概論		プロジェクトの形成と管理の概要を理解する。(ワークシ ート①から④までの理解と共有)		
	2023/6/29 (木)	第5講	18:30～19:30 (60)	プロジェクトの形成 (プロジェクトの目的と目標の設定)	全受講 生	受入先の事業に対する理解を踏まえて、プロジェクトのアイ デアを出す。	キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施	
		第6講	19:40～21:10 (90)		各プロ ジェクト			
	2023/7/6 (木)	第7講	18:30～19:30 (60)	プロジェクトの管理	全受講 生	コーディネーターからの講義を通じて、プロジェクト管理の 手法を学ぶ。	キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施	
		第8講	19:40～21:10 (90)	プロジェクトの形成 (目的と目標の共有、タスク分析)	各プロ ジェクト	プロジェクトのアイデア発表とガントチャートの作成。		
	2023/7/13 (木)	第9講	18:30～19:30 (60)	プロジェクトの形成 (作業タスクの洗い出し、スケジュールの作成)	各プロ ジェクト	ワークシートに取り組み、プロジェクトの作業タスクとスケ ジュールを作成する。	キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施	
		第10講	19:40～21:10 (90)	プロジェクト・マネジメント (進捗の共有)	全受講 生	他のチームの受講生との意見交換を行い、プロジェクト活 動の完成度を高める。		
	2023/7/20 (木)	予備日	18:30～19:30 (60)	※夏期休暇前に講義休止が発生した場合の予備日。				キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施
		予備日	19:40～21:10 (90)					
	夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。							
	2023/9/7 (木)	第11講	16:50～17:50 (60)	プレゼンテーショントレーニング (映像コンテンツの活用法)	全受講 生	プロジェクトの夏期活動中間報告に向けて映像コンテンツ の活用法を学ぶ。	キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施	
		第12講	18:00～19:30 (90)	サマーセッション プロジェクト・マネジメント (プロジェクトの現状把握と課題整理)	各プロ ジェクト	これまでの活動を振り返ってプロジェクトの現状を把握し、 ワークシートを通して課題を整理する。		
		第13講	19:40～21:10 (90)					
	夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。							
プロジェクトの 振り返り	2023/10/5 (木)	第14講	18:30～19:30 (60)	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト夏期活動報告)	各プロ ジェクト	映像を作成して、それぞれのプロジェクトにおける夏期休暇 中の活動を報告しあい、質問や感想を交換する。	キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施	
		第15講	19:40～21:10 (90)					
	2023/10/12 (木)	第16講	18:30～19:30 (60)	プロジェクト・マネジメント (プロジェクトのアウトプットの最終確認)	各プロ ジェクト	受入先とコミュニケーションを取りながら、ワークシートの全 体像を確認する。	キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施	
		第17講	19:40～21:10 (90)					
	2023/10/26 (木)	第18講	18:30～19:30 (60)	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト・プレゼンテーションにむけた準備)	各プロ ジェクト	プロジェクト・プレゼンテーションにむけた準備を行う。	キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施	
		第19講	19:40～21:10 (90)					
	2023/11/2 (木)	予備日	18:30～19:30 (60)	※夏期休暇後に講義休止が発生した場合の予備日。				キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施
		予備日	19:40～21:10 (90)					
プロ ジェ クト 評 価	2023/11/11 (土)	第20講	10:40～12:10 (90)	プロジェクト・マネジメント (自己評価:プログラム受講を通して自己の変化を 振り返る)	全受講 生	プログラム受講を通じた自己の変化を振り返る。	キャンパスブラ ザ京都または オンライン (ZOOM)での 実施	
		第21講	13:00～14:30 (90)	プロジェクト・プレゼンテーション 修了式		約5ヶ月にわたるプログラムの総括として、プロジェクトごと に活動報告を行う。全体で、それぞれのプロジェクトの到達 点について相互評価を行い、今後の学生生活の目標を明 らかにする。		
		第22講	14:40～15:40 (60)					
		第23講	15:50～17:50 (120)					

●講義は感染症の拡大状況他、その他の社会状況によりキャンパスプラザ京都(対面)またはオンライン(ZOOM)にて実施します。

●7月、8月、9月の毎週少なくとも1回は受入先または実習現場(オンラインを含む)での活動を行います。

●学習レポートおよびプロジェクト報告書 提出期間: 11月11日(土)～16日(木) ※最終日の締切は 12:00 です。(時間厳守)

資料5. 長期プロジェクトコース プロジェクト別コーディネーター一覧

受入先	プロジェクト概要	受講者数	コーディネーター
社会福祉法人 あだち福祉会	【京都こども宅食プロジェクト～こどもの貧困問題を考える～】 京都こども宅食は、生活の厳しいご家庭に定期的に食品を『届ける』ことにより『繋がり』を作り、各ご家庭を見守りながら、困りごと等必要に応じて適切な支援に『繋げる』ことを目標としています。この活動の普及や新しいコミュニティの形成に向け、新しい視点で一緒に活動していきましょう。	2	小辻 寿規 立命館大学 共通教育推進機構
一般社団法人 Impact Hub Kyoto	【～花背フィールドラボプロジェクト～】 花背は、千年以上の歴史を持つ祇園祭のちまき笹の採集地で歴史的背景から「都の源泉」と呼ばれています。ここをフィールドにそこでの暮らしや生き方を学びながら、さまざまな異分野の人々と一緒に、環境が持続しながら発展する地域づくりに挑戦しませんか？	2	坂本 清彦 龍谷大学 社会学部
特定非営利活動法人 気候ネットワーク	【脱炭素社会と再生可能エネルギー100% 実現に向けた調査・情報発信】 脱炭素社会の実現に向けて「再生可能エネルギー100%実現」「脱炭素地域づくり」に関する情報収集・発信、調査研究、イベント開催、広報等を行います。新しいスキルを身につけ、構想力・創造力・企画力の向上につながる体験をしてください！	2	◎桜沢 隆哉 京都女子大学 法学部
株式会社 大槻シール印刷	【Rediscovery Label おもしろい新商品シール開発】 当社は「まちのシール屋さん」。シールは身近な存在ですが、その使い道はまだ未開拓。シール印刷の実際を理解して、新しい感覚の商品の企画開発から製品の完成、ネット等での販売方法を考え実践します。学生さんの感性に期待しています！	2	築地 達郎 龍谷大学 社会学部
株式会社 インサイトハウス	【きょうのやまなさんプロジェクト】 山科を歩き回り、子供から大人、お年寄りまで様々な方の想いやストーリーを聴き、集め、インタビュー記事として形にして、HP、Facebook、フリーペーパー、回覧板、絵本などを通して地域の人々向けに発信。まずは「自身が楽しむ」をモットーに活動していただきます。	2	西村 雅信 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 デザイン・建築学系
株式会社 ユニオン・エー	【若者向け就職情報フリーマガジン「おっちゃんとおばちゃん」を悩める学生に発信しよう！】 16歳～30代の若者に向けた就職情報誌「おっちゃんとおばちゃん」を企画・発行しています。就活を始める前、または就活真っ只中で、自分の進路悩んでいる学生や若者の手に届けたいです。企画から一緒に考えましょう。媒体についてはもちろん、皆さん自身が「働く」についてじっくり考える機会にしたいです。	3	野村 実 大谷大学 社会学部

全体統括：○吉田 咲子 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 キャリア形成学部

◎：総合コーディネーター ○：チーフコーディネーター

資料6. ビジネスコース／パブリックコース講義概要

	日程	コマ数	時間	講義名	講義単位	内容	
事前学習	6/17 (土)	第1講	10:00～10:30 (30)	オリエンテーション①: プログラム参加にあたって	全受講生	プログラムの概要やプログラムに臨む心構え等を説明します。	
			10:30～11:00 (30)	リスクマネジメント講習①: 事前学習に向けての心構え		インターンシップ・プログラムを受講する上でのリスクマネジメントを学びます。	
		第2講	11:20～12:50 (90)	クラスの相互理解	クラス	クラスに分かれ、担当教員を中心として、クラスメンバーの紹介をしあいます。	
		第3講	13:50～15:20 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定①	クラス	グループディスカッションを中心として、仮説と実習目標設定のための意見交換を行います。	
		第4講	15:30～16:30 (60)	コミュニケーショントレーニング		就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中でのコミュニケーション能力等について、専門講師を招いて講習します。オンラインでのコミュニケーションの取り方を学びます。	
		第5講	16:40～18:10 (90)				
	受入先との事前打合せ(初顔合わせ):6月22日(木)～7月7日(金)の間に実習先を訪問またはオンラインでの打合せを行い、実習内容・期間の確認、事前学習レポート作成に向けてアドバイス等の指導を受ける。						
	7/1 (土)	第6講	10:00～11:30 (90)	業界と社会に対する学習①	クラス	受入先担当者や修了生のゲストスピーカーによるお話をもとに受入先について探求し、事前学習レポート作成のポイントを学び、内容を深めます。	
		第7講	11:40～12:40 (60)	業界と社会に対する学習②			
		第8講	13:40～15:10 (90)	スキルアップトレーニング	クラス	ロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師を招いて実践的理論を学びます。オンラインでのグループワーク、コミュニケーションの取り方を学びます。	
		第9講	15:20～16:50 (90)				
	7/8 (土)	第10講	10:00～11:30 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定②	クラス	グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめとして、実習目標を明確にします。また、事前学習レポートの書き方のポイントを学びます。	
		第11講	12:30～14:00 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定③		グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめとして、実習目標を明確にします。また、事前学習レポートの書き方のポイントを学びます。	
		第12講	14:10～15:40 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定④		事前学習レポートの内容をより深めます。	
		第13講	16:00～17:00 (60)	リスクマネジメント講習②:実習・事後学習に向けての心構え	全受講生	実習中に留意しなくてはならないリスクについて学びます。実習にあたっての準備、確認・注意事項を確認します。	
			17:00～17:30 (30)	オリエンテーション②:実習・事後学習に向けての事務連絡		レポート提出、実習中、事後学習に必要なポイント説明、事務連絡を行います。	
	7/15 (土)	予備日	10:00～18:00	※事前学習日に講義休止が発生した場合の予備日			
実習	実習の実施（原則として8月1日(火)～9月15日(金)の期間で実施されます。実習期間中に担当コーディネーターによる中間指導があります。）						
補講日	9/9 (土)	補講日	9:00～10:30 (90)	※クラスによって実施される場合があります			
			10:50～12:20 (90)				
事後学習	9/16 (土)	第14講	10:00～11:00 (60)	実習経験の共有①	クラス	実習において得たことや感じた課題等について相互に発表を行い、個々の体験をクラスで共有します。それらに基づくディスカッションを通して仮説の検証を行い、レポートの内容を深めます。	
		第15講	11:10～12:10 (60)	実習経験の共有②			
		第16講	13:10～14:40 (90)	実習経験の共有③			実習経験交流会に向けて、クラスとしての経験共有をまとめます。
		第17講	15:00～16:30 (90)	実習経験交流会	クラス グループ	実習を通して学んだことをクラスごとに発表し、他のクラスの発表を聞くことで、考え方や伝え方などを学び、事後学習レポートの内容に反映させます。	
		第18講	16:40～17:40 (60)	実習経験の振り返り／全体講評／修了式		他のクラスからのコメントを踏まえ各クラスで振り返りを行った後、全体講評による振り返りと修了証を授与します。	
	9/23 (土)	予備日	10:00～18:00	※事後学習日に講義休止が発生した場合の予備日			

■事前学習レポート提出期間:7月8日(土)～15日(土)

■事後学習レポート提出期間:9月16日(土)～9月30日(土) ※事前/事後学習レポート提出最終日の締切は 12:00 です。(時間厳守)

資料7. ビジネスコース／パブリックコースコーディネーター一覧

コース	主な業種・業界	クラス	受講者数	氏名	大学	所属等
ビジネス	小売・販売・専門店 士業(法律・会計事務所) コンサルティング・調査・研究	B1	7	加藤 康	京都経済短期大学	経営情報学科
	不動産・建築設計	B2	9	嘉本 伊都子	京都女子大学	現代社会学部
	不動産・建築設計	B3	9	岸岡 洋介	京都外国語大学	共通教育機構
	教育(学校・大学等)	B4	9	古谷 伸子	大谷大学	社会学部
	教育(学校・大学等)	B5	8	澤井 志保	京都産業大学	外国語学部
	エンタテインメント レジャー・アミューズメント その他	B6	8	須賀 涼太	京都産業大学	経営学部
	製造(食品) 製造(アパレル・繊維)	B7	9	関 智宏	同志社大学	商学部
	ホテル・旅館 非営利組織	B8	9	高野 拓樹	京都光華女子大学・ 京都光華女子大学 短期大学部	キャリア形成学部
	金融・証券・保険	B9	11	多湖 雅博	京都文教大学	総合社会学部
	マスコミ・広告・印刷・出版 情報・通信・IT 商社・卸売	B10	9	◎ 多田 実	同志社大学	政策学部
	マスコミ・広告・印刷・出版 デザイン	B11	9	○ 濱田 崇嘉	龍谷大学	経営学部
	金融・証券・保険 コンサルティング・調査・研究 医療・福祉 人材ビジネス	B12	9	三保 紀裕	京都先端科学大学	経済経営学部
パブリック	官公庁 非営利組織	P1	9	○ 黒宮 一太	京都文教大学	総合社会学部
	官公庁 非営利組織	P2	9	平本 毅	京都府立大学	文学部
	官公庁	P3	9	◎ 古川 秀夫	龍谷大学	国際学部
	官公庁	P4	10	松村 千鶴	京都府立大学	教職センター
	官公庁	P5	9	山岸 達矢	京都橘大学	経済学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料8. 受講生意識調査集計結果

就職に対する意識や自己理解に関する質問項目を設定し、実習若しくはプロジェクト実施の前後に同じ質問に回答する形式の調査を行い、インターンシップが与える影響についての考察を加えた。

社会人として仕事をするうえでの知識や心構えに関わる「就職レディネス」、自己管理能力の感覚に関わる「有能感」、自らの社会における立場をわかまえているかについて知る「自己主体性」の3つの要素を測定するため、30項目の指標を用いた(表-1)。

また、各質問についてはそれぞれ「非常に当てはまる」を6点、「かなり当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「かなり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、平均点を算出し、グラフ化して比較した(表-2)。

1.実施日

ビジネスコース／パブリックコース
長期プロジェクトコース

2023年6月15日～6月17日／2023年9月16日～
2023年6月13日～6月15日／2023年11月11日

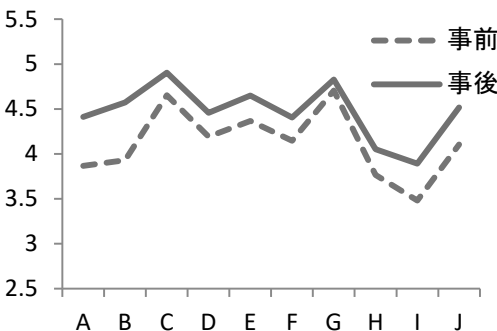
2.回答数

	実習許可 者数	事前		事後	
		回答数	回答率	回答数	回答率
ビジネスコース	104	145	94.8%	119	77.8%
パブリックコース	49				
長期プロジェクトコース	15	11	73.3%	13	86.7%
合 計	168	156	92.9%	132	78.6%

表-2. 意識調査結果(比較)

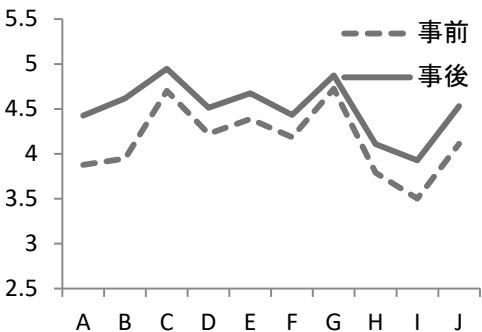
<全体>

全体の結果については、就業体験型のビジネスコース／パブリックコースの変化を大きく反映するものであるが、両コースの共通点として「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」の変化が大きい。このことから、インターンシップへの参加により、社会人になる心構えに変化が生じることがわかる。



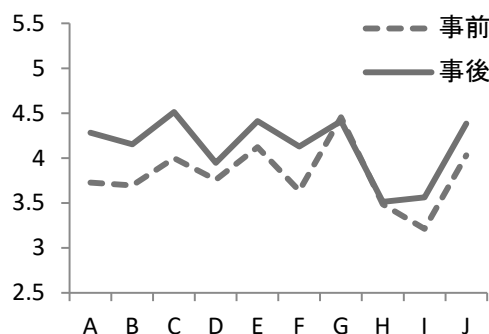
<ビジネスコース／パブリックコース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。特に「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」及び「自己主体性」の項目にあたるI「社会へのコミット感」、J「自己理解」の変化が大きい。これらは、実際の仕事の体験を通じた社会人との関わりが大きな変化をもたらしたと考えることができる。



<長期プロジェクトコース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。事前調査と事後調査の変化については、特に「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」の変化が大きく、様々な職業、社会人との関わりながら長期間のプロジェクトを実行する過程が大きな変化をもたらしたと考えることができる。



資料8. 受講生意識調査集計結果
表 -1. 意識調査の指標と平均点

		実習前					実習後				
		ビジネス・パブリック		長期プロジェクト		全体	ビジネス・パブリック		長期プロジェクト		全体
		平均		平均		平均	平均		平均		平均
就職レディネス	A 職場の人間関係への理解	4.38		4.09		4.36	4.84		4.46		4.80
		3.61	3.88	3.55	3.73	3.60	4.21	4.43	4.00	4.28	4.19
		3.65		3.55		3.64	4.23		4.38		4.24
		4.28		3.91		4.26	4.78		4.62		4.77
就職レディネス	B 組織で働くことへの理解	3.88	3.95	3.82	3.70	3.87	4.60	4.62	4.08	4.15	4.55
		3.68		3.36		3.66	4.48		3.77		4.41
		4.92		4.36		4.88	4.92		5.15		4.95
		4.17	4.70	3.73	4.00	4.13	4.88	4.95	4.00	4.51	4.80
就職レディネス	C 学生と社会人の区別	5.02		3.91		4.94	5.03		4.38		4.97
		3.82		3.18		3.78	4.43		3.62		4.35
		4.57	4.22	4.18	3.76	4.54	4.72	4.51	4.46	3.95	4.70
		4.28		3.91		4.26	4.39		3.77		4.33
有能感	D ジェンダー問題への気づき	4.41		4.18		4.39	4.72		4.38		4.69
		4.76	4.39	4.45	4.12	4.74	4.96	4.68	4.69	4.41	4.93
		3.99		3.73		3.97	4.34		4.15		4.33
		4.11		3.73		4.08	4.43		3.69		4.36
有能感	E 実行力	4.26	4.18	3.55	3.64	4.21	4.33	4.43	4.23	4.13	4.32
		4.19		3.64		4.15	4.55		4.46		4.54
		4.61		4.27		4.58	4.82		4.23		4.76
		4.44	4.72	4.18	4.45	4.42	4.76	4.87	4.15	4.41	4.70
有能感	F 環境適応力	5.12		4.91		5.11	5.05		4.85		5.03
		4.13		3.55		4.09	4.25		3.54		4.18
		3.64	3.79	3.27	3.48	3.62	3.82	4.11	3.31	3.51	3.77
		3.59		3.64		3.60	4.25		3.69		4.20
有能感	G 柔軟な物事の見方	3.75		3.36		3.72	4.03		4.08		4.03
		2.80	3.50	2.64	3.21	2.79	3.35	3.93	2.69	3.56	3.29
		3.95		3.64		3.93	4.40		3.92		4.36
		4.25		4.27		4.25	4.75		4.85		4.76
自己主体性	H 生活規律	4.30	4.11	4.27	4.03	4.29	4.73	4.53	4.62	4.38	4.72
		3.79		3.55		3.77	4.12		3.69		4.08
		3.75		3.36		3.72	4.03		4.08		4.03
		2.80	3.50	2.64	3.21	2.79	3.35	3.93	2.69	3.56	3.29
自己主体性	I 社会へのコミット感	3.95		3.64		3.93	4.40		3.92		4.36
		4.25		4.27		4.25	4.75		4.85		4.76
		4.30	4.11	4.27	4.03	4.29	4.73	4.53	4.62	4.38	4.72
		3.79		3.55		3.77	4.12		3.69		4.08
自己主体性	J 自己理解	4.25		4.27		4.25	4.75		4.85		4.76
		4.30	4.11	4.27	4.03	4.29	4.73	4.53	4.62	4.38	4.72
		3.79		3.55		3.77	4.12		3.69		4.08
		4.25		4.27		4.25	4.75		4.85		4.76

2023 年度インターンシップ・プログラム実施報告書

発行日 2023 年 12 月

発行・編集 公益財団法人 大学コンソーシアム京都
教育事業部 インターンシップ事業推進室

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内

TEL: (075) 353-9106 FAX (075) 353-9101

ポータルサイト

<https://consortiumkyoto-internship.jp/>

公益財団法人大学コンソーシアム京都ウェブサイト

<https://www.consortium.or.jp/>
